にがおえ工房

今日の西浦さ～ん!!!

今号は秋バージョンの院長です。かわいく塗って持って来てね!!

ニックネーム：

本誌へのメッセージ：

きりとり

ほっとニュース

院内盆踊り大会

8月2日（木）に院内盆踊り大会を開催しました。大会当日が台風接近で雨天の予測がされたため、体育館での開催となりました。当日は館内のために暑さはありましたが、予想以上の参加者で盛り上がりも感じられ、スムーズに大会が進行されました。各病棟のぼんぼり作成も工夫が見られ、大会に華を添えていました。今年度の経験を来年度の開催に繋げたいと思います。

病院祭開催のご案内

当院では下記の要項にて病院祭を開催いたします。例年通り模擬店・アトラクション・特別講演・etc　ほか「和」～みんなで広げよう笑顔の輪～をテーマに地域の皆さまに楽しんでいただける病院祭を行いたいと考えております。ぜひお越しください。

開催日時　平成19年10月20日(土曜日)
場所　鈴鹿厚生病院・グラウンド及びリハビリ棟
雨天決行　体育館

●外来診療担当医表　（鈴鹿厚生病院）

		月	火	水	木	金
午前	初診	高山	中瀬	小野	野村	川喜田
	再診	中瀬	川喜田	川喜田	西浦	
	再診		山本		中瀬	
午後	初診	中澤	宇野	林	西村	14時～ 山本
	再診	小野	西浦		高山	
	再診	西村				

理念　ささえあい、ともに生きる

基本方針

- 患者さまや地域の皆さまに、信頼され選ばれる病院づくりを行います。
- 患者さまが地域で快適な生活が送れるよう、積極的にサポートします。
- 患者さまの人権を尊重し、きめ細かく配慮します。
- 患者さま一人一人の治療プランに添った医療を行い、一日も早い家庭・社会復帰を目指します。
- 地域におけるメンタルヘルスに積極的に取り組みます。
- 医療の質向上に向けて日々研鑽を積みます。

編集後記

今号は「園芸・農耕活動」や「盆踊りの模様」などをお伝えしました。さて、広報委員スタッフは「Live With すずか」の名のとおり、皆さまと一緒に創っていきたいと考えています。本誌へのご感想や、ご要望・ご意見がございましたらお気軽にご連絡ください。

TEL・059-382-1401（代表）　FAX・059-382-1402
Eメール・info@skh.miekosei.or.jp

三重厚生連 鈴鹿厚生病院
第12号
2007.10.01
発行／三重県厚生連鈴鹿厚生病院
編集／TCK 名古屋
所在地／三重県鈴鹿市岸岡町589-2
TEL／059-382-1401
ホームページ／http://www.miekosei.or.jp/skh/

ともに生きる… Live with すずか

地域の皆さまのお役に立ちたい情報誌

園芸・農耕活動の治療的な効果は・・

園芸・農耕活動は、植物そのものや植物が育つ環境から受ける刺激、植物に関連するさまざまな活動を、精神機能や感覚運動機能の維持・回復、生活の質の向上にもちいるリハビリテーション技法の1つです。

当院での活動内容は・・

当院では平成16年6月の病院新築に伴い、リハビリ棟南側の土地を利用し、園芸・農耕活動を行っています。最初に活動に取り組む前は、何もない場所だったので、入院患者さまと職員が協力しあい、石拾いなどから開始し、土を搬入し整地を行ってから取り組み始めました。主な活動の内容としては旬の野菜作りや花壇作りなど季節感の感じられる活動を行っています。

野菜作りでは、患者さまの知識と経験が披露される場面が多く、野菜作りの経験のない職員にとっては頼りになる存在です。また、種まきや苗植えから取り組み始めるために、その成長を感じることで喜びや達成感を味わうことができます。

収穫した野菜での調理実習

活動によって収穫した野菜は調理実習に使用し、カレーやピザ、サラダなどを作り患者さまに好評です。

また、調理は患者さま中心で行なえるようにしています。調理実習を通して退院後の社会生活能力や入院生活におけるQOL（生活の質）の維持・向上を目的としています。

見学は大歓迎です

園芸・農耕活動は治療の1つとして行っています。今後も社会復帰に向けた活動として取り組めるように、活動内容や環境作りを行っていきたいと考えています。興味をもたれた方は、ぜひ花壇や畑を見学して見て下さい。

心の健康セミナー　誌面版

毎号連載！

心の健康セミナー誌面版は皆さまに精神科病院や病気などをテーマに沿って毎号連載し解説していくコーナーです。

テーマ　これからの精神科医療看護とは　～part①～

今号の講師

看護部長
森中　みゆき

精神障害者において、平成16年9月に「精神保健医療福祉の改革ビジョン」が公表され、入院後早期に退院が出来る体制整備をするための精神医療の改革や、退院した精神障害者が地域で安心して暮らせる地域生活支援の強化が図られることになりました。しかし、入院期間の短縮は患者さんの自己決定、自己選択といいながらも患者さん、家族が不安を抱いている面が多々あるかと思います。当院もノーマライゼーションの理念により地域生活支援の充実と、社会的入院患者さんの退院促進を行っています。それには患者さんが入院から退院後の地域生活までを一連のものとして考え、クリニカルパスを取り入れ、入院早期の段階から退院後の地域生活を念頭におき、他職種によるチーム医療で支援体制を行っています。精神科に入院となると強制入院のイメージが強いかも知れませんが、現在では患者さんの人権を尊重した法律（精神保健福祉法）があり、「任意入院」が入院治療の中心となってきています。しかし患者さんに病識がなく自分自身や周囲の人を傷つけてしまう可能性がある場合は、精神保健指定医の診察にて「強制入院」もありますが、患者さんの病状により入院形態も変更となり早期に退院できるようになっています。

病棟は開放・閉鎖病棟があります。開放病棟は夜間以外、自由に病院外に出入りできますが閉鎖病棟は主治医の許可を必要としています。

医療サービスは量から質へと転換しつつあり、利用者の医療への関心が高まり看護ケアの機能が重要視されるようになってきました。（次号に続く）

診察室から　自分の判断で薬を中断すると病気が再燃する場合がよくあります

40代の女性。退院後、就職もして、日常生活も特に困る事もなく自分では病気が治ったと思って、薬をのまない日が続いていた。様子がおかしいと家族と共に外来を受診。
最初に女性が診察室に入室。

西村正廣 医師

医師：いかがされましたか。
女性：どうもないのですが、無理やり連れてこられました。
医師：そうですか。では、何か困ったことがおありでしょうか？
女性：隣の家がうるさくて気になって。
医師：具体的には、どのようにお困りでしょうか？
女性：昼間はいらいらして落ち着いて家にいられませんし、夜は寝られません。それで文句を言いに行きましたら、口論になって親に無理やり連れ戻されました。あの隣の家は絶対におかしい。
医師：なるほど。どのようなことを言っていましたか？
女性：悪口をボソボソと言ってきます。

次に家族に診察室に入っていただく。
医師：お家での生活はいかがですか？
家族：よく手伝いもしてくれますし、仕事にもちゃんと行っていました。よく聞くと2ヶ月間どうも薬を飲んでなかったみたいです。私も治ったと思って気をつけていなかった面もあります。

主治医から

薬を中断すると今までの調子が崩れてしまい、悪くすると入院を要する事になります。調子が良くても油断することなく服薬を続けながら主治医の治療方針に従っていただければと思います。

♥　心にゆとりのコーナー　♥

体調をととのえる秋

さわやかで実りの多い秋は食べ物もおいしく、夏バテで衰えていた食欲も出始めます。そこで、食欲に任せて急に食べ始めると、暑さで弱っていた胃に負担がかかり、かえって消化吸収が悪くなります。暑い中、さっぱり・あっさり風な食事をしていた人の疲れが残ってすっきりしないのは、必要な栄養が摂れていないためでしょう。

～旬の食材を取り入れた食事で体調を整えていきましょう～

★もちろん衰えた体力を回復するには、卵・肉・魚・大豆製品などの良質のたんぱく質が最適でしょう。

★香りのある野菜や果物は胃の働きを良くし、食欲をそそります。

★レモンや柿に含まれるビタミンCは疲れを取る助けをしてくれます。

鮭の味噌粕漬け焼き

材料4人分
- ●生鮭・・・4切れ
- ●味噌・・・25g
- ●酒粕・・・20g
- ●砂糖・・・5g

} A

作り方
1. Aを混ぜ合わせ、漬け床を作る。
2. バットに①を薄く敷き、鮭を置き、残りの①をのせて半日ほど漬ける。
3. ②の切り身を、着け床をきれいにとってグリルで焼き、野菜などをそえる。

院内百科 vol 4

SST委員会（社会生活技能訓練）

当院の「中央化SST」を紹介します。週1回、各病棟の患者さまとスタッフ数名の小グループにて1時間活動しています。患者さまには、各自、目標設定し活動、宿題をして頂きスタッフはサポートしています。ひと工夫としては宿題ノートに活動内容や宿題を記入していただく事により確認とスタッフとの情報共有化を図っています。毎回、患者さまに大きな変化とはいえませんが少しずつ、より良い変化が見られます。それに加えてスタッフも成長させていただきます。今後も患者さまと共にSSTに取り組んでいきたいと思います。

スマイリー・バトンリレー　vol 12

東2病棟のスタッフ

東2F男女混合開放病棟

東2階は男女混合の開放病棟です。慢性期にある患者さまに対して看過することなく、いつでも笑顔で心に寄り添う看護を提供します。
患者さま一人ひとりの人生の価値を高め、支援し安心感を持って入院生活が送れることを重要視しています。スタッフ一同、患者さまの明日につながる今日を考え重責を担います。
男性34名、女性26名の定床で（個室4）、（4人部屋14）を備えています。

ストレスOFF

『ちょっといいシネマ』

作品紹介
事務部長
小泉 正己

転校生 さよならあなた
2007年　日本　120分
監督：大林宣彦
主演：蓮佛美沙子、森田直幸

大林宣彦監督が尾道三部作（『転校生』『時をかける少女』『さびしんぼう』）として世に送り出した名作の一本が、25年ぶりに舞台を尾道から信州に替えて甦りました。思わぬハプニングで心と身体が入れ替わってしまう幼なじみの男女の悲喜劇を描いたおなじみの青春ファンタジーですが、25年にわたる子供たちの生活、時代の変化を見事に描き、更に、監督みずから「50年後の長野の子供たちに見せたい映画を」と未来への思いが込められたすばらしい作品となっています。映画初主演の蓮佛美沙子さんの男役と森田直幸君の女役が絶妙な演技で楽しませてくれます。大笑いしながら見ているうちに、終盤には切なく泣かされ、生きる元気とさわやかな感動をもらい、長野の美しい自然、隠れた裏町情緒にも心が癒されます。